

## 第12回 呉西圏域ビジョン懇談会 会議録

日 時：令和7年2月18日(火) 13時45分～15時00分

場 所：高岡市役所 802 会議室

### ○開会挨拶

(とやま呉西圏域連携推進協議会 会長)

### ○令和6年度の取組み実績及び令和7年度の連携事業について

(事務局による資料説明)

〈質疑なし〉

### ○第2期ビジョンの中間評価及び今後の連携のあり方について

(事務局による資料説明)

〈質疑なし〉

### ○第3期ビジョンの骨子について

(事務局による資料説明)

〈質疑なし〉

### ○意見交換

(委員)

第3期のビジョンをつくる上では、6市がそれぞれにやるのではなくて、圏域として何をするかが大事である。1丁目1番地は「つながり」だと思っており、そのために必要なものは、公共交通ネットワークの活性化である。人が動かないと、繋がりの上にある人づくりや稼ぐ力の取組みが始まらない。

車で移動する方のための駐車場整備や、交通弱者の方のための交通手段など、呉西6市間を早く移動できることが、まずは目指すべきところと考えている。同じテーマで6市がそれぞれに何かをやるのではなく、6市としての取組みができるように第3期に向けて検討いただきたい。

重点的な取組みにある「こどもまんなか」について、呉西6市の教員の人事交流、流動的な人材配置など呉西の義務教育を考えることをやっていただきたい。そうすることで、子育てするなら呉西だなとか、圏域内のどこへ行っても教育水準が確保されていいなと思ってもらえると思う。

(委員)

県立高校の再編について、数年かけて段階的に進めていくことが示されているが、6市や住民のエゴが出ないように全体のバランスを考えていただきたい。生徒は所在市に関係なく自分の行きたい学校を選んでいる。呉西に学校が残るように、市長同士で定期的に意見交換されたい。また、公共交通の利便性を高め、生徒が学校へ通いやすくなるとよい。

(委員)

骨子案にある「地域の観光資源を生かした戦略的な広域観光施策の推進」について、呉西圏域には、素晴らしい観光コンテンツ・資源がたくさんあるが、まだまだ知られてない、生かされてないという現状。

観光分野では、エリアの選定が重要である。K P I の主要観光地入込客数を見ると、コロナ禍前である2015～2019 年平均で 330 万人であったが、令和5年度が 270 万人となっている。金沢市の入込客数が 1,000 万人、白川村の入込客数が 170 万人であるので、これらの隣接するエリアを含めると 1,500 万人の観光客がいることになる。呉西に限らず、広くエリアを選定し連携していくということも必要ではないか。

呉西6市の一番大きい資源は祭りだと思う。圏域内の祭りには四季や文化を感じられるものが豊富にあり、この資源を連携させてさらに人を呼びこめるようにできればよい。例えば、夜高祭りは南砺市福野、小矢部市津沢、砺波市の3市にあるが、連携した集客プロモーションをするプランがない。

エリア内にある祭りを結びつけてストーリーを作ることによって魅力的なものができる。山鉾、山車だけでも、城端、砺波、高岡市伏木などに多種多様な山車があり、6市で連携してプロモーションかければもっと集客が見込める。隣接市や観光協会同士の連携が出来れば、具体的に進めていけると思う。行政だけでなく、観光協会や現場で活動される民間の支援を集めればすばらしいものができると思う。

第3期ビジョンでは、たくさんある魅力で 1,500 万人の観光商圏から人を動かせるということを意識していただきたい。

(委員)

6市にある祭りの共通点を活かし、もっと大きな連携ができればよい。

富山県西部地区観光協議会を組織しており、各市の観光協会もその枠組みで様々な事業を実施している。呉西圏域として連携した取り組みもいろいろと実施されているが、今後、行政と観光協会が強い連携をとれば、もっと効果的にできると考えている。

(委員)

先日、射水市が高校生企業フェアを開催した。高校2年生を対象に企業37社が出展したが、高校生の参加人数が少なかった。高校生と企業との繋がりを作るため、授業の一環として指導していただければ、地元の企業との触れ合いを増やすことができると考えている。いずれ社会に出ていく高校生が対面で企業と交流することによって、地元の企業に目を向けていただける機会となる。

漁業界においては、地元よりも県外からの就職者の方が多い。定置網漁業では、若い女性が3名就業されているが、全員県外出身者という現状。地元就職が少ないのは、地元企業と子どもたちの接点が少ないことが要因で、特に若い女性が、就業や進学等で地域を出て行ってしまうと感じている。この状況を食い止めるため、地元企業が子供たちと接する機会を多く作っていただきたい。

(委員)

学会を開催し、県外、海外の先生方をお迎えすることがあるが、開催地選定の際、県内だと富山市になってしまうのが現状。高岡市で開催する場所を探す、懇親会を300～400名でやろうと思ってもその人

数が入る場所がない。

一方で、おもてなしコンテンツとしての文化や観光資源の観点では、富山市には岩瀬や立山など限られたコンテンツしかなく、県西部にはいっぱいあると感じている。伏木けんか山にフランスの方を連れて行ったことがあるが、高岡市には宿泊施設が少なく、富山市までの移動時間を考えると、滞在時間を短くせざるを得なかった。大きな会議や懇親会ができる場所を6市で作っていただくなどアイデアを出していただきたい。

2つ目として、射水市や高岡市の大学等の研究機関をぜひご活用いただきたい。企業の方々の発展にもなり、我々大学側としても新しいことを始めるきっかけにもなっている。特に、DX、AI活用の研究を学生が一生懸命やっており、ご協力いただければと思っている。

3つ目として、基本目標とKPIについてもう少し細かく評価、分析することが必要かと思う。例えば、達成できている指標の目標値をより高く設定するなど、細かく指標を設けられたらよい。

(委員)

長期視点に立てば呉西地区全体で人口が減っていく中で、維持が難しくなる公のサービスをどう連携して守っていくのか。

この呉西地区には様々なポテンシャルを持っていると思う一方で、そのポテンシャルを生かし切れていない場面も多々あるように感じている。呉西地区を守る視点と、伸ばす視点に分けて整理し、それぞれに6市としてどのような取組みができるのか、課題を短期、長期に分けて考えることも必要ではないか。例えば、上下水道の経営など、各市や県で行っている事業を、6市合同で経営するということが必要かもしれない。長期視点に立ったビジョンを、このような場で検討すべきではないのか。

公共交通の観点では、現在、私が住む高岡市は、スポーツ施設、文化施設が点在しており、集約化されていない。各市が持つ長期の計画と呉西6市のビジョンという2つの視点での議論をしていく必要がある。

第2期のビジョンはありとあらゆることが書いてあるが、絞り込んで、守る視点、伸ばす視点をそれぞれに立てて、区分をして考えていかないとまとまらないのではないか。

(委員)

第3期ビジョン骨子案では、「行政リソースの効率的な活用」という、現行ビジョンにはなかった新たな視点が加わっている。水道、公共施設も含めた行政リソースをいかに効率的に活用していくかということは、今後、国、県も含めて重要なテーマになってくると思う。

第2期ビジョンの1つの成果としてある、公共施設のマネジメントに対する研究調査をきちんと引き継ぎながら、骨組みづくりをしっかりと進めていただければ。

また、観光のKPIの評価はBであるということで、今後なお一層推し進めていかなければと感じたところ。施策を見ると、北陸DCに合わせたプロモーションや6市連携による首都圏でのプロモーションなどは、他自治体や他組織でも同じようなことを実施されている印象があり、あまねく人々に対して総合的に当たっていくプル型の施策になっているのではないか。

一方で、呉西圏域には祭りを始めとした観光資源が豊富にあり、産業観光などを生かして、ターゲットを絞ったプッシュ型の施策を打っていく必要がある。観光の分野では他の地域とは一味違ったような施

策を打ち出せると感じており、ぜひ検討していただきたい。

○閉会挨拶

（とやま呉西圏域連携推進協議会 副会長）

○閉会

（終了 15:00）